

令和 6 年 6 月 23 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K13402

研究課題名（和文）インダス文明の社会構造：生産様式と交換様式からみた都市と農村の関係性について

研究課題名（英文）Social Structure of the Indus Valley Civilization: Studies in the Relationship between Ancient Cities and Villages through Modes of Production and Modes of Exchange

研究代表者

小茄子川 歩 (Konasukawa, Ayumu)

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・特任准教授

研究者番号：20808779

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：インダス文明の社会構造の一側面の理解を目的として、インドにおける現地調査と国内における研究を実施し、当文明社会の初期都市と農村の実態及び両者の有機的関係性に関する基礎的な検討を行った。その結果、初期都市を中心とし、それらを結節点とする初期都市結節型広域ネットワークに関連する44遺跡と、文明期においても既存の伝統地域文化を各地で保持・温存し続けたと推察されるその他の1,000カ所ほどの農村／伝統地域社会を、それぞれに特徴づけた生産様式及び交換様式が大きく異なっていたことが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

当研究の成果は、インダス文明の社会構造が、生産様式はもとより交換様式も異にする、初期都市／初期都市結節型広域ネットワークと農村／伝統地域社会の有機的関係性に基づいた、「統一性」と「多様性」のせめぎ合い／均衡構造に特徴づけられる多中心的な二重社会という側面をもつ、という国内外の既存の「常識」とは大きく異なる新理解に繋がる基礎的なデータとなる。さらに生産様式と交換様式を異にする初期都市と農村の有機的関係性を理解するための異なる「価値」を接続／転換させるための「バッファ」という社会のアレンジメント方法の考究、そして都市や文明とは何か、という人類史における普遍的な問いへの答えにも繋がる。

研究成果の概要（英文）：In order to understand one aspect of the socio-cultural, political and economic structure of the Indus civilization, I conducted field research in India and research in Japan, and conducted a basic study of the actual conditions of the early urban and rural areas of this ancient civilized society and the organic relationship between the two. The results suggest that the modes of production and modes of exchange that characterized the 44 sites related to the early urban nodal wide-area network with the early cities as the center and them as nodes, and the other 1,000 or so rural/traditional communities that are presumed to have maintained and preserved their existing traditional local culture during the civilization period, differed greatly from each other.

研究分野：比較考古学

キーワード：インダス文明 社会構造（初期都市と農村の関係性） 生産様式と交換様式 貨幣と価値 バッファ 亜周辺 国家に抗する社会 南アジア基層社会文化・政治経済史

### 1. 研究開始当初の背景

インダス文明とは、紀元前 2600 年頃に現在のパキスタン及び北西インドを中心とする地域に成立した南アジア最古の文明社会である。当文明はその社会構造が解体する紀元前 1900 年頃までの約 700 年間にわたり、社会文化・政治経済的な変容を経ながら、モヘンジョダロやハラッパーなどの初期都市とされる主要な大規模遺跡を中心として、南北 1,500km、東西 1,800km に及ぶ広大な範囲に展開した。この広大な範囲に、当文明に関わる 1,070 カ所ほどの遺跡が確認されており、そのうち規模の明らかな 546 遺跡についてみれば、5ha 以下の小規模な遺跡（主に農村）で全体の 7 割ほどを占める（10ha 以下とすると割合は 8 割 5 分ほど）。この事実は当文明社会における小規模農村の比重の高さを示しており、インダス文明社会の大きな特徴である。

言うまでもなく、この広大な地理的範囲を特徴づけた「環境」（「環境」= 生態環境 + 歴史地理的特質）は多様であり、当地に住む人びとに生業や居住などの側面で様々なレベル・形態での適応を要求した。その結果として、中心としての初期都市、周辺としての農村に、生業や技術、経済、文化レベルの異なる社会集団が共時的に存在する、多様な構造の社会が生みだされたと推察される。このような当文明社会の特徴は、「多様性」の語で表され得るはずである。またここでは、初期都市と農村の地理的関係性を中心 - 周辺の関係で述べておくが、中心の方が優れているとか、周辺の方が劣っているなどの目的論的な発展段階論に基づくものではない。

しかしインダス文明については、それが「統一性」に特徴づけられる文明社会であり、広大な版図に統一的な物質文化的様相が示される、という 1920 年代の文明の発見当初以来の根強い通説が存在し、「常識」となってきた。古代文明社会が一つの社会システムとしてある程度の社会文化・政治経済的または物質文化的統一性を有することは当然であり、当文明についても、確かに統一的な側面を認めることができる。例えば、インダス文明を特徴づける物質文化の一つで、インダス式印章（印面に一角獣をはじめとする主モチーフと平均 2~5 文字程度のインダス文字が陰刻され、裏面に紐を通すためのつまみ / 紐をもつ方形・押捺型の判子状の遺物）や主としてローフリー丘陵産の縞目のあるチャートでつくられた立方体もしくは直方体のおもり（0.86g を比率 1 とした二進法と十進法を併用する明確な単位に基づく）、ハラッパー式土器、紅玉髓製ビーズなどに現れる、いわゆるハラッパー文化は広範に分布し、「インダス様式」とも言うべき「統一性」を体現している。しかしながら、この「常識」は十分に検証されてきたとは言えず、当文明の社会構造の実態を議論する上で、その解釈の幅を限定する大きな要因となってしまっている。

すなわち本研究開始当初の学術的背景として、**当文明社会の「統一性」ばかりが取り上げられ、「多様性」の具体化を目的とした研究、そして「統一性」と「多様性」の関係性を掘り下げる研究が不問に付されてきた状況が挙げられる。**

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、これまで具体的に検討されてこなかった**当文明社会における「多様性」= 「農村 / 伝統地域社会のあり方」の実態を詳らかにした上で、初期都市と農村の関係性を改めて問い直すこと。つまり、当文明の社会構造の一側面を明らかにすることである。**具体的には以下のような研究目的がある。

：当文明社会の中心としての初期都市と周辺としての農村から出土した物質文化をマクロ・ミクロレベルから考古学的に検討し、物質文化にみられる「統一性」と「多様性」を把握する。

：初期都市と農村における生産様式と交換様式のあり方を、の研究成果に基づき比較検討し、明らかにする。

：と の研究成果に基づき、初期都市と農村の実態と両者の有機的関係性を、人類学による研究成果や南アジア前近代史研究の成果も参照し、多角的に検討しつつ明らかにする。

上記①~③の研究目的を完遂することで、物質文化にみられる「統一性」と「多様性」の相互の関係と歴史的意義を明らかにし、当文明の社会構造の一側面を明らかにする。

### 3. 研究の方法

「2. 研究の目的」に記した本研究の目的を達成するために、以下のような研究を実施した。

#### **インダス文明社会の物質文化にみられる「統一性」と「多様性」に関するマクロ・ミクロレベルでの検討**

中心としての初期都市と周辺としての農村における物質文化の実態と異同を明らかにするため、現地調査を行い、インダス文明関連遺跡から出土した遺物を比較検討した。また初期都市とその他の集落（農村も含む）に共通してみられることもあるハラッパー文化の実態と異同を把握するため、インダス式印章の製作技術というミクロレベルでの異同も検討した。後者の分析においては、製作実験と走査型電子顕微鏡を用いた観察を組み合わせる方法で実施した。

#### **初期都市と農村の実態と両者の有機的関係性に関する検討**

の研究を通して得られた成果に基づき、初期都市と農村における生産様式と交換様式のあり方を、以下の方法で総合的に検討し、初期都市と農村の実態と関係性を詳細に掘り下げた。

生業や技術的側面と主に関係する生産様式については、初期都市とその他の集落(農村も含む)における物質文化(両者に共通してみられることもあるハラッパー文化を含む)の異同を、マクロ・ミクロレベルの異なる視点から比較検討した。またその成果に基づき、初期都市と農村の実態と両者の関係性を探った。

一方、主に経済的側面と関係する交換様式の検討に際しては、初期都市と農村の物質文化を比較検討する際に、モノの交換(交易/商取引を含む)に関わる遺物(印章+文字/おもり)を抽出し、その分布傾向などから、初期都市と農村を特徴づけた交換様式を検討し、両者の実態と関係性を探った。交換様式の検討については、インダス文明において一般目的貨幣などの交換媒体が確認されていないため、当文明社会における商品交換/「貨幣」の存在を考古学研究のみで明らかにすることには困難が予想された。そこで本研究では、「貨幣」などの解釈において、人類学の研究成果、さらには考古資料と文献史料の併用により、都市と農村の実態と両者の有機的関係性を捉える試みが盛んになされている南アジア前近代史研究の成果も積極的に参照した。

#### 4. 研究成果

「3. 研究の方法」に記したように、インドにおける現地調査と国内における研究を実施し、当文明社会の初期都市と農村の実態及び両者の有機的関係性に関する基礎的な検討を行なった。

ただし新型コロナウイルス感染症拡大のため、2020・2021年度は申請者自身による現地調査をまったく行えなかったという事実があり、当初予定していたラキー・ガリー遺跡周辺に存在する農村遺跡のサーベイ・試掘調査は、その計画から仕切り直しが必要となった。2022年度後半よりインドにおける現地調査を徐々に再開させ、さらに当研究課題は上記の理由により1年間の補助事業期間延長が認められたことから、2023年度は2022年度未使用額を執行するかたちでインドにおける現地調査を積極的に実施し、当研究課題の成果を次の研究課題に発展的に継承するための下準備を入念に行った。サーベイ・試掘調査については、次の研究課題で実施する予定であることを明記しておく。

本研究の結果、当文明の社会構造の一側面の理解に関して、以下のような成果を得た。当文明社会の「統一性」を表徴する物質文化であるハラッパー文化の主要素のうち、商品交換/「貨幣」を機能させるための「信用」形成に関わっていたと推察される遺物(印章+文字/おもり)は、文明期に属する1,070カ所ほどの遺跡のうち、初期都市を中心とし、それらを結節点とする「初期都市結節型広域ネットワーク」に関連する44遺跡からしか出土しないことが明らかとなった。この研究成果は、初期都市/初期都市結節型広域ネットワークと、文明期においても「既存の伝統地域文化」=「多様性」を各地で保持・温存し続けたと推察されるその他の1,000カ所ほどの小規模集落(主に農村)/伝統地域社会を、それぞれに特徴づけた生産様式及び交換様式が大きく異なっていたことを示唆する。

インダス文明の社会構造を解明するためには、物質文化のミクロレベルでの検討や、初期都市と農村の実態と有機的関係性の詳細、及び物質文化にみられる「統一性」と「多様性」の相互の関係と歴史的意義について、新型コロナウイルス感染症拡大のため次の研究課題で実施することになったサーベイ・試掘調査などの成果もふまえ、今後の研究でさらに掘り下げる必要がある。

しかしながら当研究の成果は、インダス文明の社会構造が、**生産様式はもとより交換様式も異にする、中心としての初期都市/初期都市結節型広域ネットワークと周辺としての農村/伝統地域社会の有機的関係性に基づいた、「統一性」と「多様性」のせめぎ合い/均衡構造に特徴づけられる多中心的な二重社会**という側面をもつ、という当文明の社会構造についての新理解に繋がる基礎的なデータとなる。

こうした理解は、国内外の既存の「常識」とは大きく異なる極めて新規性の高い知見であり、生産様式と交換様式を異にする初期都市/初期都市結節型広域ネットワークと農村/伝統地域社会の有機的関係性を理解するための異なる「価値」を接続/転換させるための「バッファ」という社会のアレンジメント方法の考究(図1)さらに都市そして文明とは何か、という人類史における普遍的な問いへの答えにも繋がるものである。

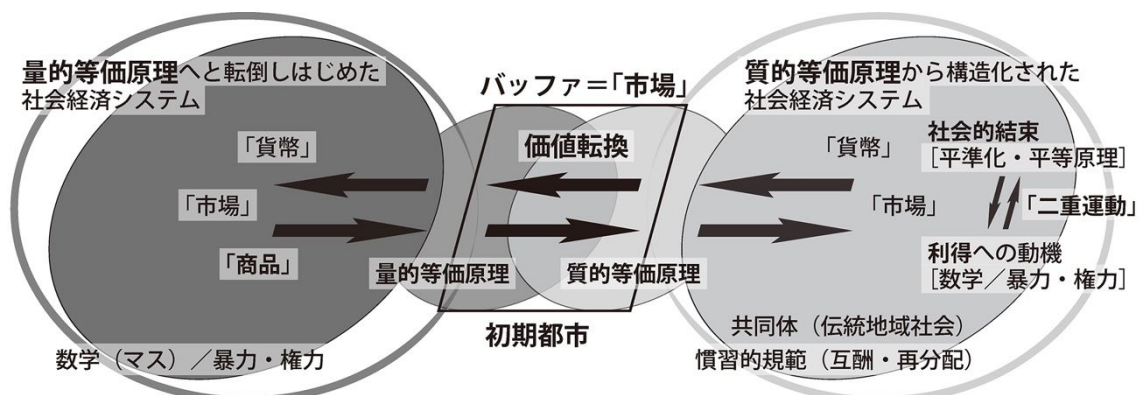


図1 バッファ=初期都市における異なる価値の接続/転換の構造(筆者作成)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Ayumu Konasukawa	4. 巻 -
2. 論文標題 Comparative Analysis on the Seal Carving Techniques of the Early Harappan and the Mature Harappan Periods: Preliminary Observations through SEM and PEAKIT	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Culture, Tradition and Continuity (Disquisitions in Honour of Prof. Vasant Shinde, 3 Vols)	6. 最初と最後の頁 143-155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小茄子川歩	4. 巻 -
2. 論文標題 インダス文明と「亜周辺」における社会進化 バッファ・都市・文明・国家	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『社会進化の比較考古学 - 都市・権力・国家 - 』	6. 最初と最後の頁 35-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小茄子川歩	4. 巻 -
2. 論文標題 古代都市の二つの類型について：南アジア先・古代史の長期的展開をめぐって（前3千年紀初頭から前1千年紀半ば）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『南アジアの人口・資源・環境』	6. 最初と最後の頁 3-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小茄子川歩	4. 巻 -
2. 論文標題 7 インダス文明 その展開と滅亡の要因は何か	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い1158』	6. 最初と最後の頁 30-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小茄子川歩	4. 巻 -
2. 論文標題 インダス文明は「国家」にならず(人文知のフロンティア 23)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都新聞(夕刊)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小茄子川歩	4. 巻 726(260)
2. 論文標題 インダス文明で使われていた印章 そのデザインと社会経済文化的意義	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史と地理(世界史の研究)	6. 最初と最後の頁 31-39
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ayumu Konasukawa	4. 巻 -
2. 論文標題 Regional Variations of the Harappan Seals in Light of Their Design and Carving Techniques Observed through SEM and PEAKIT (3D) Analyses	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 South Asian Archaeology and Art 2014	6. 最初と最後の頁 43-60
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ayumu Konasukawa	4. 巻 1
2. 論文標題 Seals of the Early Harappan Period in Light of the seals Discovered at Kunal	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 South Asian Archaeology and Art 2016	6. 最初と最後の頁 133-144
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ayumu Konasukawa	4. 巻 -
2. 論文標題 Chronological Changes and Continuity of the Seal from the Early Harappan to the Harappan Periods in the Ghaggar Basin: Their Significance for Understanding the Seal Chronology and 'Invention' of Indus Seal	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Cultural Heritage of South Asia and Beyond: Recent Perspective	6. 最初と最後の頁 49-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ayumu Konasukawa	4. 巻 -
2. 論文標題 Indus Scripts Incised on the Seals Discovered from the Initial Phase of Harappan Period in the Ghaggar Basin: Their Significance for Understanding the Chronology, the Context and the Interpretation of Indus Writing System	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Studies on Indus Script	6. 最初と最後の頁 39-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小茄子川歩	4. 巻 3
2. 論文標題 亜周辺の特質 交換様式・環境多様性・地政学的条件からみたインダス文明の社会構造	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日々の考古学	6. 最初と最後の頁 247-262
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ayumu Konasukawa	4. 巻 -
2. 論文標題 Seal Carving Techniques of the Early Harappan Period from Kunal: Preliminary Observations through SEM and PEAKIT (3D)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Peopling and Cultural Spread: Studies in South Asian Archaeology, in honor of Prof. Vasant S. Shinde	6. 最初と最後の頁 印刷済 (確認中)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ヴァサント・シンデー・金容俊・申東勳・小茄子川歩	4. 巻 別冊季刊考古学44
2. 論文標題 生物人類学と古病理学からみたインダス都市の繁栄と衰退	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『都市化の古病理学』	6. 最初と最後の頁 13-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 小茄子川歩	4. 巻 MINERVA人文・社会科学叢書255
2. 論文標題 南アジア型発展径路の基層 「人口小規模世界」の人類史的位置について	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『近現代熱帯アジアの経済発展 人口・環境・資源』	6. 最初と最後の頁 85-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計77件 (うち招待講演 70件 / うち国際学会 11件)

1. 発表者名 Ayumu Konasukawa
2. 発表標題 The Foundation of the South Asian Development Path: Indus Civilization
3. 学会等名 Debating Economic Development in Tropical Asia Historical Pathways, Environmental Constraints and Population Growth (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 「文明」に抗さない社会
3. 学会等名 『万物の黎明』公刊記念シンポジウム「『万物の黎明 人類史を根本からくつがえす』を読む：「自由」とプレイ（遊戯）の人類史・文明史の構築に向けて」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第1回 インダス文明社会の概要（本連続講座の導入）
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インダス文明 最新の発掘・研究の成果から（全6回）』（新宿教室）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第2回 インダス文明社会の成立と都市の起源
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インダス文明 最新の発掘・研究の成果から（全6回）』（新宿教室）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第3回 インダス文明の「国家」に抗する社会構造
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インダス文明 最新の発掘・研究の成果から（全6回）』（新宿教室）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第3回 都市革命とインド文明の基層：インダス文明の興亡（超古代）
3. 学会等名 NHK文化センター『インド史10講（全10回）』（梅田教室）（招待講演）
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第4回 インダス文明社会の遺構と遺物
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インダス文明 最新の発掘・研究の成果から（全6回）』（新宿教室）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 「国家」に抗したインダス文明社会 最新の発掘・研究の成果から
3. 学会等名 アンデス文明研究会 定例講座 2021年の夏季講座（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第5回 インダス文明社会の生業・生活と交易
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インダス文明 最新の発掘・研究の成果から（全6回）』（新宿教室）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第6回 インダス文明社会の解体・衰退とその後の南アジア社会
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インダス文明 最新の発掘・研究の成果から（全6回）』（新宿教室）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第1回 インダス文明の遺跡を巡る パキスタン編
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター「遺跡で巡る世界の歴史」シリーズ『遺跡で巡る古代南アジア・古代中央アジア（全3回）』（立川教室）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第2回 インダス文明の遺跡を巡る インド編
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター「遺跡で巡る世界の歴史」シリーズ『遺跡で巡る古代南アジア・古代中央アジア（全3回）』（立川教室）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第3回 バクトリア - マルギアナ考古学複合（BMAC、オクサス文明）の遺跡を巡る
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター「遺跡で巡る世界の歴史」シリーズ『遺跡で巡る古代南アジア・古代中央アジア（全3回）』（立川教室）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 インドの歴史 都市革命とインド文明の基層 [ 第4回 インダス文明の成立（超古代 ） ]
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インドの歴史』（横浜教室）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 インドの歴史 都市革命とインド文明の基層 [ 第5回 インダス文明の展開と衰退・解体 ( 超古代 ) ]
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インドの歴史』( 横浜教室 ) ( 招待講演 )
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 インドの歴史 人類史の始まりと定住革命 [ 第4回 インダス文明の成立 ( 超古代 ) ]
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インドの歴史』( 中之島教室 ) ( 招待講演 )
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 インドの歴史 人類史の始まりと定住革命 [ 第5回 インダス文明の展開と衰退・解体 ( 超古代 ) ]
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インドの歴史』( 中之島教室 ) ( 招待講演 )
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 文明・国家・帝国の興亡とその特質 「多様性共存型社会」の可能性を探る
3. 学会等名 NHK文化センター『インド史再考 歴史から掘りだした人類の「知恵」に学ぶ ( 全3回 ) 』( 梅田教室 ) ( 招待講演 )
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第1回 インダス文明社会の生存基盤、および都市と農村 自然環境と歴史地理的特質 / 生産様式と交換様式の季節的変移
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター 『インダス文明 『文明』の本来的意義を考える(全3回)』(千葉教室)(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第2回 インダス文明社会の生存基盤 自然環境と歴史地理的特質
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター 『インダス文明の社会構造 『文明』を再考する(全6回)』(中之島教室)(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第1回 インダス文明と『万物の黎明』 人類史・文明の新しい見方
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター 『インダス文明の社会構造 『文明』を再考する(全6回)』(中之島教室)(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第2回 インダス文明の文字、信仰体系、および交易と「価値」 数学(マス)と暴力による固定化した包括的権威のシステムを自覚的・組織的に避ける方法、そして「貨幣」
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター 『インダス文明 『文明』の本来的意義を考える(全3回)』(千葉教室)(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 インダス文明の社会構造と「文明」の本来的意義
3. 学会等名 NHK文化センター『インド超古代~古代史講義 「インド文明」の基層を考える(全6回)』(梅田教室)(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第3回 インダス文明の都市と農村 生産様式と交換様式の季節的変移
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インダス文明の社会構造 『文明』を再考する(全6回)』(中之島教室)(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第3回 「国家」に抗したインダス文明の社会構造と『万物の黎明』 「文明」の本来的意義
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インダス文明 『文明』の本来的意義を考える(全3回)』(千葉教室)(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第4回 インダス文明の文字と信仰体系 固定化した包括的権威のシステムを自覚的・組織的に避ける方法
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インダス文明の社会構造 『文明』を再考する(全6回)』(中之島教室)(招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第5回 インダス文明の交易と「価値」 数学(マス)と暴力による統制の不在、そして「貨幣」
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インダス文明の社会構造 『文明』を再考する(全6回)』(中之島教室)(招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第6回 「国家」に抗したインダス文明の社会構造と「文明」の本来的意義
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インダス文明の社会構造 『文明』を再考する(全6回)』(中之島教室)(招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Ayumu Konasukawa
2. 発表標題 The Foundation of the South Asian Development Path: Indus Civilization
3. 学会等名 Debating Economic Development in Tropical Asia Historical Pathways, Environmental Constraints and Population Growth (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 「文明」に抗さない社会
3. 学会等名 『万物の黎明』公刊記念シンポジウム「『万物の黎明 人類史を根本からくつがえす』を読む:「自由」とプレイ(遊戯)の人類史・文明史の構築に向けて」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第1回 インダス文明と『万物の黎明』 人類史・文明の新しい見方
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インダス文明の社会構造 『文明』を再考する(全6回)』(中之島教室)(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第1回 インダス文明社会の生存基盤、および都市と農村 自然環境と歴史地理的特質 / 生産様式と交換様式の季節的変移
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インダス文明 『文明』の本来的意義を考える(全3回)』(千葉教室)(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第2回 インダス文明社会の生存基盤 自然環境と歴史地理的特質
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インダス文明の社会構造 『文明』を再考する(全6回)』(中之島教室)(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第2回 インダス文明の文字、信仰体系、および交易と「価値」 数学(マス)と暴力による固定化した包括的権威のシステムを自覚的・組織的に避ける方法、そして「貨幣」
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インダス文明 『文明』の本来的意義を考える(全3回)』(千葉教室)(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 インダス文明の社会構造と「文明」の本来的意義
3. 学会等名 NHK文化センター『インド超古代~古代史講義 「インド文明」の基層を考える(全6回)』(梅田教室)(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第3回 インダス文明の都市と農村 生産様式と交換様式の季節的変移
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インダス文明の社会構造 『文明』を再考する(全6回)』(中之島教室)(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第3回 「国家」に抗したインダス文明の社会構造と『万物の黎明』 「文明」の本来的意義
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インダス文明 『文明』の本来的意義を考える(全3回)』(千葉教室)(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第4回 インダス文明の文字と信仰体系 固定化した包括的権威のシステムを自覚的・組織的に避ける方法
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インダス文明の社会構造 『文明』を再考する(全6回)』(中之島教室)(招待講演)
4. 発表年 2024年



1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第5回 インダス文明の交易と「価値」 数学(マス)と暴力による統制の不在、そして「貨幣」
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インダス文明の社会構造 『文明』を再考する(全6回)』(中之島教室)(招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第6回 「国家」に抗したインダス文明の社会構造と「文明」の本来的意義
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インダス文明の社会構造 『文明』を再考する(全6回)』(中之島教室)(招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 「亜周辺」における発展径路の人類史・比較文明史的位置 - インダス文明の社会構造に関する考古学的研究から -
3. 学会等名 出ユーラシアの統合的人類史学 - 文明創出メカニズムの解明 - 「第7回全体会議」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 「反ホップズ」考古学とその射程 「亜周辺」論からの一視点
3. 学会等名 2022年度 第1回 比較考古学研究会
4. 発表年 2022年

1 . 発表者名 Ayumu Konasukawa
2 . 発表標題 Indus Seal Production in the Ghaggar Basin: Microscopic and Experimental Analyses
3 . 学会等名 50th Annual Conference on South Asia, Symposiums “ Innovative Approaches to Traditional Archaeology in South Asia: Indus to Early Historic Periods ” ( 招待講演 ) ( 国際学会 )
4 . 発表年 2022年

1 . 発表者名 Ayumu Konasukawa
2 . 発表標題 Indus Scripts Incised on the Seals Discovered from the Initial Phase of Harappan Period: An Investigation of the Chronology of Indus Writing System
3 . 学会等名 Emerging Perspectives of the Harappan Civilization: An International Colloquium on the Genesis, Material Culture, Climatic Scenario and Theoretical Perspectives on the Harappan Civilization ( 招待講演 ) ( 国際学会 )
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Ayumu Konasukawa
2 . 発表標題 Some comments on the recent developments in Early Historic Archaeology of South Asia
3 . 学会等名 One day International Seminar “ Early Historic Archaeology of South Asia: Recent Perspectives ” ( 招待講演 ) ( 国際学会 )
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Ayumu Konasukawa
2 . 発表標題 Harappan Seals having a Right-facing Animal Motif: Its Significance for Understanding the Chronology or Regional Variations of the Harappan Seals
3 . 学会等名 IIT ( Indian Institute of Technology ) Gandhinagar, Archaeological Science Centre Webinar Series ( Lecture XXIX ) ( 招待講演 ) ( 国際学会 )
4 . 発表年 2023年

1. 発表者名 Ayumu Konasukawa
2. 発表標題 A Consideration on the Chronology of Harappan Seals
3. 学会等名 A lecture as part of the Archaeology Discussion Group Lecture series, Deccan College Post-Graduate and Research Institute (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ayumu Konasukawa
2. 発表標題 The Chronology of Indus Seal Production in the Ghaggar Basin: Microscopic and Experimental Analyses (Part 1: Microscopic Analysis)
3. 学会等名 49th Annual Conference on South Asia, Symposiums "Seals and Sealings of South Asia: Indus to Early Historic Period," Center for South Asia, Wisconsin-Madison. O N L I N E (Canapii) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ayumu Konasukawa
2. 発表標題 Preservation of the monuments in Japan and their significance with personal experience as a former ICCR scholar
3. 学会等名 Protection of the Monuments and their significance for Preservation of National Heritage, National Monuments Authority, Ministry of Culture, Government of India. O N L I N E (Webinar, Webex) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 長期的發展径路 古代
3. 学会等名 、2021年度「環インド洋熱帯」科研・第一回研究会、オンライン (Zoom) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 インダス文明の都市結節型広域ネットワーク 「国家」/イスラーム以前の貨幣・交換様式・パツファ=都市
3. 学会等名 ワークショップ「比較の中のイスラーム経済」、オンライン (Zoom) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 亜周辺の歴史的意義：カール・ウィットフォーゲルとピエール・クラストル
3. 学会等名 北條芳隆・小茄子川歩・有松唯編著『社会進化の比較考古学 都市・権力・国家』（別冊 季刊考古学35、雄山閣、2021年）書評会、オンライン (Zoom)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 インダス文明と社会進化 - 都市・文明・国家 -
3. 学会等名 シンポジウム「社会進化の比較考古学」事前研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ayumu Konasukawa, Vasant Shinde and Nilesh Jadhav
2. 発表標題 Minor Objects from the Settlement Area at Rakhigarhi: Their Significance for Understanding the Chronology, the Context and the Interpretation of Harappan Culture in the Ghaggar Basin
3. 学会等名 Special Session on Rakhigarhi Archaeological Research Project, 7th International Congress of Society of South Asian Archaeology (SOSAA) (Webinar) 2020 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 南アジア先・古代史の長期的展開について：前4千年紀後半から前1千年紀半ば
3. 学会等名 パネル報告（代表：小茄子川歩）「南アジア前近代史の長期的展開をめぐって：前4千年紀後半から後2千年紀半ば」、日本南アジア学会第33回全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 インダス文明と「亜周辺」における社会進化 - パッファー・都市・文明・国家 -
3. 学会等名 シンポジウム「社会進化の比較考古学」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第3回 古代インドの国家と仏教の成立
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター横浜教室「インドの歴史」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 インダス文字 研究・解読の最前線と課題
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター 新宿教室（ONLINE）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第一回 インダス文明の成立と都市の起源
3. 学会等名 NHK文化センター梅田教室+ONLINE「インダス文明 最新の発掘・研究成果から 」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第二回 インダス文明の「国家」に抗する社会構造
3. 学会等名 NHK文化センター梅田教室+ONLINE「インダス文明 最新の発掘・研究成果から 」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第三回 インダス文明の衰退とその後の南アジア社会
3. 学会等名 NHK文化センター梅田教室+ONLINE「インダス文明 最新の発掘・研究成果から 」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第4回 古代インドの統一帝国とヒンドゥー教の成立
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター横浜教室「インドの歴史」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 ユーラシア大陸の知られざる古代文明 バクトリア - マルギアナ考古学複合 (BMAC) の歴史的意義
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター 横浜教室 (ONLINE) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 集住のはじまり方はその後の発展径路を規定するか インダスとメソポタミアの比較から
3. 学会等名 「考古学」大勉強会 進化と脱進化 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 南アジアにおける都市と農村の起源・性格 環境多様性・地政学的条件にもとづいた集住と社会のあり方 (書評会のための内容解説)
3. 学会等名 2019年度KINDAS研究グループ1-A「南アジアの長期発展径路」第1回研究会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 インダス文明の社会経済文化史 華麗なるインド文明の基層をさぐる
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター (新宿教室) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 亜周辺の特質 交換様式と地政学的条件からみたインダス文明の社会構造
3. 学会等名 2019年度KINDAS研究グループ1-A「南アジアの長期発展経路」第2回研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 南アジアの（超）長期的発展経路 紀元前4千年紀後半から紀元前1千年紀半ばまで
3. 学会等名 2019年度「環インド洋熱帯」科研・第二回研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第1回 人類史の始まりと定住革命
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インドの歴史』（横浜教室）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 Indus Scripts Incised on the Seals Discovered from the Initial Phase of Harappan Period in the Ghaggar Basin: Their Significance for Understanding the Chronology, the Context and the Interpretation of Indus Writing System
3. 学会等名 International Conference on Indus Script, Mohenjodaro 2020（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 インダス文明社会で使われていた「貨幣」 人類史における交換のあり方と「貨幣」の起源をさぐる
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター（新宿教室）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 第2回 インダス文明の興亡
3. 学会等名 朝日カルチャーセンター『インドの歴史』（横浜教室）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 南アジアの長期的発展径路 前4千年紀後半～前1千年紀半ば
3. 学会等名 2019年度KINDAS研究グループ1-A「南アジアの長期発展径路」第3回研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小茄子川歩・佐藤孝宏
2. 発表標題 インド亜大陸における潜在的農業生産力／人工扶養力 近現代南アジアの環境史研究についてのリフレクション
3. 学会等名 2019年度KINDAS研究グループ1-B「南アジアの開放経済」第1回研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 国家に抗するインダス文明社会 「亜周辺」としての南アジアにおける二次的国家形成の特質
3. 学会等名 2019年度KINDAS研究グループ1-A「南アジアの長期発展径路」第4回研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 南アジアにおける「貨幣」と都市の起源
3. 学会等名 2019年度KINDAS研究グループ1-A「南アジアの長期発展径路」第5回研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小茄子川歩
2. 発表標題 南アジアの長期的発展径路について 前4千年紀後半～前1千紀半ば
3. 学会等名 2019年度KINDAS研究グループ1-A「南アジアの長期発展径路」第6回研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 北條芳隆・小茄子川歩・有松唯	4. 発行年 2021年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 152
3. 書名 社会進化の比較考古学 都市・権力・国家	

1. 著者名 藤田幸一・大石高志・小茄子川歩	4. 発行年 2022年
2. 出版社 人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト地域研究推進事業「南アジア地域研究」京都大学 中心拠点・研究グループ1	5. 総ページ数 202
3. 書名 南アジアの人口・資源・環境	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>【当科学研究費助成事業に基づいて開催した国内におけるシンポジウム・研究会】</p> <p>1) 2020. 10. 10-11. シンポジウム「社会進化の比較考古学」（主催：シンポジウム「社会進化の比較考古学」実行委員会、共催：人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト地域研究推進事業「南アジア地域研究」京都大学中心拠点・研究グループ1-A「南アジアの長期発展経路」、共催：科学研究費助成事業〔若手研究/19K13402〕）</p> <p>2) 2022. 3. 26. 2021年度 第1回 比較考古学研究会〔瀬川拓郎〔札幌大学〕「狩猟採集民と農耕民の接触領域におけるバッファの実態およびその成立と変容 北海道島における通時的検討」〕（主催：比較考古学研究会、共催：科学研究費助成事業〔若手研究/19K13402〕）</p> <p>3) 2022. 10. 15. 2022年度 第1回 比較考古学研究会〔酒井隆史〔大阪公立大学〕「人類史における「遊戯性」、あるいは国家はいかに「分解」するのか D・グレーバー、D・ウエングロウ『万物の黎明（The Dawn of Everything）』から考える」〕（主催：比較考古学研究会、共催：科学研究費助成事業〔若手研究/19K13402〕）</p> <p>4) 2023. 12. 17. 『万物の黎明』公刊記念シンポジウム（2023年度 第1回 比較考古学研究会）「『万物の黎明 人類史を根本からくつつがえす』を読む：「自由」とプレイ（遊戯）の人類史・文明史の構築に向けて」（主催：比較考古学研究会、共催：東京文化財研究所/科学研究費助成事業〔19K13402〕）</p>
---

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 49th Annual Conference on South Asia, Symposiums “Seals and Sealings of South Asia: Indus to Early Historic Period”	開催年 2021年～2021年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
インド	Deccan College		
米国	University of Wisconsin-Madison		